



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION

THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO SETAGAYA

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

C/O TOKYO YMCA MINAMI CENTER 3-23-2 MIYASAKA, SETAGAYA-KU, TOKYO, 156-0051 JAPAN

国際会長主題
アジア太平洋地域会長主題
東日本区理事主題

「輝かそう、あなたの光を」
「変革のための 光となろう」
「未来のために今、学びと気づきを！
未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う」

Ulrik Lauridsen (デンマーク)
利根川 恵子 (川越)
山田 公平 (宇都宮)

東新部部長主題
クラブ会長主題

「All 東新部、継続・発展」
「心を尽くしてYMCAのために」

今井 武彦 (東京むかで)
小川 圭一 (東京世田谷)

会長 小川 圭一
副会長
書記

2024年4月会報

強調 テーマ

* Week 4 Waste *
(RBM)

会計 小原 武夫
直前会長 峰 毅
担当主事 押山 愛紀子

† 今月の聖句

父よ、彼らをお赦してください。
自分が何をしているのか知らないのです。
新約聖書 ルカによる福音書 23-34

二人は、「道で話しておられるとき
私たちの心は燃えていたではないか」
と語り合った。
新約聖書 ルカによる福音書 24-32
(小川 選)

司会 三浦 功雄 君

1. 開会点鐘 小川 圭一 会長
2. ワイズソングと信条 一同
3. ゲストとビジター紹介 小川 圭一 会長
4. 今月の聖句朗読 松井 直樹 君
5. 会食 一同
6. YMCA を卒業される秋田さんから、
秋田正人さん
今後のクラブライフを語る 一同
7. ハッピーバースデー ありません
8. 結婚記念日 4/10 村野 繁 夫妻
9. ニコニコ献金
10. 諸報告
11. 閉会点鐘 小川 圭一 会長

✪ 4月例会プログラム

とき 令和6年4月19日(金) 19:00~21:00
ところ 東京YMCA南コミュニティーセンター3F
電話 03-3420-5361

3月のデータ	会員在籍	12名	例会出席者 3月15日(金)	3月のBF他献金	ニコニコファンド
	出席率	75%	会員 8名	切手 0g	3月 13,600円
	第2例会	1	メネット 0名	現金 24,000円	年度計 77,043円
			メイキャップ 1名	累計切手 0g	
			ゲスト 1名		
			ビジター 8名		
			合計 18名		
2023~2024年度 自主献金については 今期もクラブからの 献金とします					

本日のメインプログラム

クラブを解散するという、未経験の時を過ごしています。勿論ですが、お気持ちのある方は他クラブへの転入などぜひお願いします。

春は出会いと別れの季節ですね。世田谷クラブが応援している「公正で平和な世界をつくるために」頑張った秋田さんのお話も伺えると思います。

また、6月以降の集いのグループ名を「YMCAすずらん会」としたいと考えています。この名前でNHK首都圏ネットワークでも取り上げられた歌声ボランティアは、20年以上続きました。経堂のすずらん通りにあるYMCAの地域活動でした。南センターのバザーやそこに集うリーダー諸君の応援、保育園ねがいの植栽ボランティアなど、身の丈でできる応援を「YMCAすずらん会」として、楽しみながら継続します。

※ 3月例会報告

世田谷のこどもたちのサンタになってください



鈴木 佑輔 氏

東京メディエーションセンター代表理事

東京メディエーションセンターの紹介をされてから、サンタプロジェクトのお話を

メディエーションとは mediation

(自主交渉援助型調停)

「進行役(メディエーター)」が入ることで、冷静に話がしやすくなります。

裁判によらない紛争解決方法の1つで、欧米では一般的に広く行われ、公的の機関でも活用されています。

これまでの紛争解決の多くは、権威を持つものや専門家に判断を仰ぎ決定された裁決を当事者たちが受け入れるというものでした。「メディエーション」はそれらとは違い、中立な第三者「メディエーター」の進行により当事者同士がお互いの意見や事情を聞き合い、希望をすり合わせることで解決を図ります。

世田谷のこどもたちのサンタになってください

コロナ禍などをきっかけに家計がピンチになった子育て世帯を食で応援している世田谷こどもフードパントリー。未就学から高校生世代まで約210家庭380人の子供たちが利用しています。コロナ禍が落ち着いてきても、長年の経済状況で経済的な難しさは固定化しつつあり、また昨今の物価の高騰でさらに日々の生活を難しくさせています。そんな家庭の子供たちにクリスマスプレゼントが届くようにと、2020年から活動を始め、4年目を迎えています。

みなさまからのご寄付は図書カードに変えて、世田谷こどもフードパントリーを通じて世田谷の困窮世帯にお届けしました。

12月3日、晴天の中、49人のサンタクロースが集まり、お菓子やおもちゃを配ったり、三軒茶屋駅周辺、三宿四二〇商店街、下馬エリアを練り歩きました。

14時42分に出発した世田谷線の貸し切りサンタ電車には、今年も、医療的ケア一児のデイサービスを行っているNPO法人Ohana kidsの子供たちとそのご家族も共に世田谷サンタ線にお乗りいただきました。

あるケーキ屋さんは、ケーキを寄付。ホールケーキは初めてと喜ぶ家庭。

活動は、4年間の実績もあり、NHK首都圏ネットワークで放送され、東京新聞1面に掲載されるなど、マスメディアへの広がりもありました。

ご協力いただいた寄付金は、1,373,528円にもなり、2,000円の図書券をフードパントリーに来る334件のご家族に渡すことができました。

ちなみに、世田谷クラブからは、12万円のご支援を頂きました。

ところで、高齢者には介護保険などがあるが、子育て支援の状況は、区によっても異なる。世田谷区と板橋区の比較を通して、子供支援、ベビーシッター、児童館、学童給食、不登校支援など、対応が異なることから、少子化が進む折から、今後の課題であると、問題提起をされました。

さて、終わりに、サンタプロジェクト。

「サンタはいるんだよ」 大事にして！！





東京西クラブとの 3月合同例会

本川悦子会長、吉田明弘さん、神谷幸男さん、篠原文恵さん、河原崎和美さん、高島美智子さん、村野絢子さん、 7名がご参加されました。

✿ YMCA保育園ねがいたより

昨年の晩秋に園児さんたちとプランターに植え付けた球根、いまは、チューリップが見ごろに。ジュリアンがきれいに咲いていますが、そろそろ園児さんと植栽のころ合いかな。園庭のソメイヨシノも見ごろになり、新園児さんを迎えています。4月22日(月)10:30～、園児さんとの植栽プログラムを予定いたします。ご都合のつく方々は宜しくご協力を。

(小原 記)



山田 公平 東日本区理事 メッセージより

3月9-10日には東山荘で久しぶりの対面の研修会が行われました。総勢63名が集まりました。そこで 2024-25年度へのビジョンが述べられました。

主題は「ワイズの方向を見極める」というものでした。この1年目の理事をしていて感じることは、「あっという間に終わってしまう1年目」です。年間行事が前年度から決められ、毎月の常任役員会、年4回の役員会、事業委員会、常置委員会や特別委員会もあり、それぞれ年4-5回開かれています。これらをこなしているとそれだけで1年はあっという間に終わるといことです。そんな中で茨城クラブや東京バイサイドクラブが今年度末には解散を決断し、722名で始まった2023-24年度も来年度に何人で予算を組むか心配です。

これからのワイズはどうなっていくのか、区理事として何ができるか、考え続けています。来年のテーマは、「ワイズの方向を見極める」ですが、ワイズは何を目指しているのか、そこが良く分からないので入る、維持していく意味を感じない人が増えているのではと考えます。本当にこれからの方向を見極める一年になると思います。ワイズって何をしているのか、「ワイズはこんなことを目指している」と応えることが、方向を見極めることと同じことになります。

1. 輪島市の要請を受けて、能登半島地震被災地支援として、輪島市町野町の避難所(町野小学校・東陽中学校)に、1月25日から3月末までに東京YMCA各部から合計31人のスタッフを派遣した。避難所の受付をはじめ、被災者の生活をサポートするための多様な業務に従事して、高い評価を得た。4月以降は全国YMCAが協力して同避難所の運営支援を継続していく。
2. 2月28日、いじめのない世界をめざす「YMCAピンクシャツデー」が全国のYMCAで実施された。
3. 愛恵福祉支援財団との共催で「豊かな福祉社会を創るために一わかりあえたらなあー」をテーマに実施した「第25回愛恵エッセイ賞」の表彰式が、3月9日、北とぴあ研修室、及びオンラインで開催された。一般の部、専門職の部、学生の部、外国籍の部の4部門、合わせて124人から作品の応募があり、23人が表彰を受けた。当日は八尾勝審査委員長をはじめ4人の審査委員から作品の講評があり、受賞者から一言ずつ感想が述べられた。また席上、中里敦氏(山中湖センターMD)がYMCAの能登半島地震復興支援活動について講演をした。
4. 「2023年度日本YMCAユースボランティア認証」として、全国17のYMCAで活躍するユースボランティア338人が認証を受けた。東京YMCAからも野外教育活動をはじめ各方面で活躍しているユースボランティア52人が認証された。
5. 4月より、「南コミュニティーセンター」は名称を改め、「多文化共生スペース▽(さんかく)」としてスタートした。長年事務を担当していた伊佐野さんが退職され、新たに1名のスタッフを迎えた。今年度実施するプログラムは、外国にルーツのある子どものおでかけプログラム「みっくす!」、外国にルーツのある子どもの日本語・学習サポート「サニーサイド」小学生の学習サポート「おとなりさん」libyからの流れの「食事の会」東京YMCAの特別支援プログラムを卒業した若者の余暇活動「en×joy」、「英会話」、港区の「いちよう学級」となる。

6. 今後の主な行事予定

- ・「東日本地区YMCA役員研修会」
4月27日(オンライン)
- ・「高石ともや バングラデシュ支援チャリティーコンサート」4月29日
(日本基督教団浅草教会)
- ・「第21回会員大会」5月25日(山手センター)

誰かと競うためではなく、見せびらかすためでもなく、ただ自分一人を満たすものだけに囲まれた静かな生活にひかれる。年齢を重ねるほどに憧れが強くなった。映像の中でそういう主人公に出会うと、本筋に関係なく、格好いいな、とディテールに見入ってしまいます。▼アクション映画「イコライザー」の主演はホームセンターの店員。眠れない夜にはなじみのダイナーへ行き、いつも同じ席に座ってお茶を飲みながら本を読む。「老人と海」「見えない人間」一。亡き妻が挑んで果たせなかった名作100冊の読破が目標という設定だ。単調な暮らしを読書で潤す中年男のたたずまいがいい。▼「パターソン」の主人公は路線バスの運転手である。時間通り型通り繰り返す日々。毎夜犬の散歩がてらバーに立ち寄り、1杯だけビールを飲む。それ以外に、かれには詩を書くという人生の喜びがある。読者は今のところ妻だけ、それで十分。心にあふれる言葉をペンでノートにつづる。詩を通してありふれた日常が輝く。▼そして公開中の「パーフェクト・ディズ」。役所広司扮するトイレ清掃員は世間的には貧しく孤独なのだろう。でも好きなロックのカセットを聴きながら運転し、就寝前にW・フォークナーや幸田文の本を読む時の表情は満ち足りている。内面の生活さえ豊かならば人は幸福でいられる。老いもひとりも恐れることはない。

2024. 1. 23 日経・春秋